

# 公益社団法人日本アメリカンフットボール協会 平成26年度事業報告

## I 活動報告

平成26年度（平成26年4月1日～平成27年3月31日）は、数多くの国際試合に日本代表チームを派遣した。シニア日本代表は第2回ジャーマンジャパンボウル（4月）と2015年世界選手権のアジア予選としてのフィリピン戦（4月）に、学生日本代表チームは第1回世界大学選手権（5月）に、U-19日本代表チームはIFAF第3回U-19世界選手権（7月）に、フラッグフットボールではIFAF第7回フラッグフットボール選手権（9月）と第1回アジアビーチゲームズ（11月）に、合計6つの国際試合に日本代表チームを派遣した。

平成26年度は公益社団法人としての第2期目であったが、第1期の決算書作成作業が大幅に遅れるなど事務局体制の不備が明らかとなったことから、事務局業務の再整備に取り組んだ。

### 1) 日本体育協会公認指導者養成事業

定款第5条第1項第1号に関連する事業として、公益財団法人日本体育協会（以下「日体協」という。）が主催する公認指導者養成事業の一つとして、日本体育協会からの委託に基づいてアメリカンフットボール競技に関する指導員資格の専門科目講習会を開催した。

平成26年度は、関東、関西、東北、九州、東海の各地区において30講座を開催し延べ86名が受講した。平成22年度に開始して以来、指導員資格の有資格者は延べ280名となった。

また、更新時期を迎える公認指導者資格保有者のために、資格更新に必要な義務研修を計5回開催し、延べ93名が参加した。

指導員資格の上に位置づけられる「コーチ資格」のカリキュラム作成作業として、5つのプレイブックの翻訳と、およそ400の練習ビデオの翻訳ならびに日本語テロップ挿入作業を行った。

### 2) コーチクリニック、フットボール教室

定款第5条第1項第1号に関連する事業として、対象選手を三つの年齢カテゴリー（ジュニア/U-19、カレッジ/大学生、シニア/社会人）に分け、日本代表チームのコーチを中心とするアカデミーコーチングスタッフによる一貫した指導体制で基礎技術を指導する「JAFA フットボールアカデミーキャンプ」を、以下の通り実施した。

- ・2014年5月23日～25日：U-19アカデミーキャンプ（関東開催）
- ・2014年5月29日～6月1日：U-19アカデミーキャンプ（関西開催）
- ・2014年7月5日：シニアアカデミーキャンプ（関東開催）
- ・2014年7月6日：シニアアカデミーキャンプ（関西開催）
- ・2015年2月28日：ヘッズアップフットボール特別クリニック（関西開催）
- ・2015年3月1日：ヘッズアップフットボール特別クリニック（関東開催）

- ・ 2015 年 3 月 7 日～8 日：シニアアカデミーキャンプ（関東開催）
  - ・ 2015 年 3 月 14 日～15 日：シニアアカデミーキャンプ（関西開催）
  - ・ 2015 年 3 月 21 日～22 日：シニアアカデミーキャンプ（関東開催）
  - ・ 2015 年 3 月 28 日～29 日：シニアアカデミーキャンプ（関西開催）
- フットボール教室事業はスポーツ振興くじ助成を受け運営いたしました

### 3) 川崎市まちづくり推進委員会参加

定款第 5 条第 1 項第 1 号及び第 10 号に関連する事業として、川崎市のまちづくり推進委員会（7 月 28 日開催）に参加し、アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくりと、川崎市におけるアメリカンフットボールの普及発展に努めた。

川崎市がアメリカンフットボールの活動拠点として位置付け観客席ならびに人工芝フィールドの改修工事に 2 年がかりで取り組んできた川崎富士見球技場は、富士通株式会社とネーミングライツ契約を締結したことから「富士通スタジアム川崎」として生まれ変わることとなり、平成 27 年 3 月 26 日に完成記念式典が開催された。

川崎市内の公立中学校において防具をつけたユース・フットボールの普及活動を本格化させるという方針のもと、JAJFA は防具等フットボール用具の提供、指導者の派遣、指導教材の提供等を行ってきた。平成 27 年 2 月 14 日、総合型スポーツクラブである高津 SELF（川崎市高津区）の主催で 2 回目となる体験会を開催し、X リーグの IBM ビッグブルーと富士通フロンティアーズの協力を得て、安全なフットボールの指導方法としてアメリカで定着しつつあるヘッズアップフットボールのカリキュラムに沿って中学生の指導を行った。

### 4) 東北復興支援試合

定款第 5 条第 1 項第 1 号、第 10 号及び第 11 号に関連する事業として、一般社団法人日本社会人アメリカンフットボール協会（X リーグ）及び東北学生アメリカンフットボール連盟と連携し、X リーグが東北地方で開催する下記の東北復興支援試合に被災地（福島県）から児童及び父兄 46 名を招待し、出場チームの選手やチアリーダーの協力を得てフットボール体験コーナーなどフットボールの魅力を伝える活動を行った。また、東北地域での初の高校フットボールチーム創設を目標として、東北 6 県の高校 60 校を訪問して招待券を配布するなど、東北地域でのフットボール普及活動を展開した。なお、この事業は今回で 2 回目となる。

日時：平成 26 年 8 月 30 日

会場：仙台市陸上競技場

対戦：IBM ビッグブルー対明治安田パイレーツ

### 5) アメリカンフットボール日本選手権「ライスボウル」の開催

定款第 5 条第 1 項 2 号に関連する事業として、アメリカンフットボール日本選手権「第 68 回ライスボウル」を主催した。

4 年連続出場となった学生チーム関西学院大学と初出場となる社会人チーム富士通フロンティアーズの対戦となったが、観客数が 30,751 人となり目標の 3 万人を達成した。学生選手権「甲子園ボウル」、社会人選手権「ジャパンエックスボウル」と日本選手権「ライスボウル」の三大ボウルゲームが NHK の BS 1 で放映されるようになったことに加えて、正月 3 日の恒例行事としてフットボールットボールファンの中で定着してきたと評価される。

4 年目となる「東北復興支援プロジェクト」では、岩手県一関市、平泉町ならびに JA 平泉の協力を得て、風評被害撲滅をアメリカンフットボールファンに訴えた。

#### 6) 高校生連盟・中学生連盟の主催試合に対する後援

定款第 5 条第 1 項第 2 号に関連する事業として、日本高等学校連盟が主催する第 4 5 回クリスマスボウル（平成 2 6 年度高等学校日本選手権大会決勝戦、平成 26 年 12 月 23 日開催）と第 4 回ニューイヤーボウル（東西地区選抜高等学校アメリカンフットボール対抗戦：平成 27 年 1 月 11 日開催）を後援した。

#### 7) 国際試合の主催・後援

定款第 5 条第 1 項第 3 号に関連する事業として、一般社団法人日本社会人アメリカンフットボール協会の協力を得て、以下の国際試合を主催した。

- ・第 2 回ジャーマンジャパンボウル（シニア日本代表 vs ドイツ代表）

日程：2014 年 4 月 12 日

会場：川崎富士見球技場

結果：日本代表チーム 3 8 - 0 ドイツ代表チーム

- ・第 5 回 IFAF シニア世界選手権アジア予選（シニア日本代表 vs フィリピン代表）

日程：2014 年 4 月 26 日

会場：アミノバイタルフィールド

結果：日本代表チーム 8 6 - 0 フィリピン代表チーム

また、東日本大震災の後、米軍が OPERATION TOMODACHI（ともだち作戦）と称して東北に物資の補給などの支援活動を展開したことをきっかけとして、一般社団法人関東学生アメリカンフットボール連盟が主催した第 4 回 TOMODACHI BOWL を後援した。

- ・第 4 回 TOMODACHI BOWL（U-19 米軍基地代表チーム 対 U-19 関東代表チーム）

日程：2015 年 3 月 8 日

会場：アミノバイタルフィールド

結果：U-19 関東代表チーム 1 0 0 - 2 2 U-1 9 米軍基地代表チーム

#### 8) 国際試合へのチーム派遣

定款第 5 条第 1 項第 3 号に関連する事業として、国際試合に日本代表チームを派遣した。

- ・第 2 回ジャーマンジャパンボウル（シニア日本代表チーム対シニアドイツ代表チーム）（※）  
日程：2014 年 4 月 12 日  
会場：川崎富士見球技場  
結果：日本代表チーム 38 - 0 ドイツ代表チーム
  - ・第 5 回 IFAF シニア世界選手権アジア予選（シニア日本代表 vs フィリピン代表）  
日程：2014 年 4 月 26 日  
会場：アミノバイタルフィールド  
結果：日本代表チーム 86 - 0 フィリピン代表チーム
  - ・第 1 回世界大学選手権（FISU 主催）  
日程：2014 年 5 月 1 日～5 月 11 日  
開催国：スウェーデン王国  
結果：銀メダル獲得（参加 5 カ国中 2 位）
  - ・第 3 回 IFAF U-19 世界選手権  
日程：2014 年 7 月 4 日～19 日  
開催国：クウェート  
結果：参加 8 チーム中 5 位
  - ・第 7 回 IFAF フラッグフットボール世界選手権  
日程：2014 年 9 月 10 日～12 日  
開催国：イタリア、グロセツト  
結果：男子 17 か国中 12 位、女子 14 カ国中 11 位
  - ・アジアンビーチゲームズ  
日程：2014 年 11 月 14 日～23 日（アジアオリンピック評議会主催）  
会場：タイ王国・プーケット市  
結果：参加 6 カ国中 3 位
- （※）第 2 回ジャーマンジャパンボウルは一般社団法人日本社会人アメリカンフットボール協会協賛事業として JAJFA が主催した。

世界大学選手権派遣事業はスポーツ振興基金助成を受け運営いたしました

#### 9) 国際試合への審判員の派遣

定款第 5 条第 1 項第 3 号に関連する事業として、以下の国際試合に審判員を派遣した。

- ・第 2 回ジャーマンジャパンボウル（シニア日本代表チーム対シニアドイツ代表チーム）  
日程：2014 年 4 月 12 日  
会場：川崎富士見球技場
- ・第 5 回 IFAF シニア世界選手権アジア予選（シニア韓国代表 vs シニアクウェート代表）  
日程：2014 年 4 月 12 日  
会場：Mokdong General Stadium
- ・第 5 回 IFAF シニア世界選手権アジア予選（シニア日本代表 vs フィリピン代表）  
日程：2014 年 4 月 26 日

会場：アミノバイタルフィールド

- ・第 3 回 IFAF U-19 世界選手権

日程：2014 年 7 月 4 日～19 日

開催国：クウェート

- ・第 7 回 IFAF フラグフットボール世界選手権

日程：2014 年 9 月 10 日～12 日

開催国：イタリア、グロセツト

会場：Hotel Fattoria La Principina, Cittadella dello studente

- ・アジアビーチゲームズ

日程：2014 年 11 月 14 日～23 日（アジアオリンピック評議会主催）

開催国：タイ王国・プーケット市、Saphan Hin 地区

#### 1 0) 競技規則の制定・告知・頒布

定款第 5 条第 1 項第 4 号に関連する事業として、競技規則委員会（2014 年 3 月 8 日開催）の決定に基づき、アメリカンフットボール競技の 2014 年度公式規則について、2013 年度公式規則からの変更について加盟団体に周知した。

#### 1 1) 医科学研究会

定款第 5 条第 1 項第 5 号に関連する事業として、平成 27 年 2 月 22 日、医科学研究会を開催した。アメリカンフットボールに密接に関連する医科学分野の医師、トレーナー、指導者が一堂に会して、当該年度に発生した重大事故、医科学分野における新たな知見等の情報を持ち寄って、選手の安全確保のための情報共有、意見交換を行った。また、加盟競技統括団体の所属チームに外傷報告書を提出してもらい、安全対策委員会においてデータを集計し、得られた知見については医科学研究会で報告した。参加者 80 名。

#### 1 2) ドーピング検査

定款第 5 条第 1 項第 5 号に関連する事業として、三大ボウルゲーム（甲子園ボウル、ジャパンエックスボウル、ライスボウル）においてドーピング検査を実施した。ドーピング検査は、専門機関である日本アンチ・ドーピング機構（JADA）に委託して行った。検査の結果はすべて陰性であった。

**ドーピング検査事業はスポーツ振興くじ助成を受け運営いたしました**

#### 1 3) アンチ・ドーピング講習会

定款第 5 条第 1 項第 5 号に関連する事業として、以下の日程でアンチ・ドーピング講習会を開催した。多くの指導者、選手はアンチ・ドーピングの主旨は理解しているものの、禁止薬物に関

する知識、持病等で処方を受けている薬物の事前申請（TUE）、居場所情報提出などの手続きなどについて十分な知識を有しているとは言い難く、啓蒙活動の一環として講習会を開催した。

・関東開催

日 時：平成 26 年 11 月 1 日（土）

場 所：大井町きゅりあん

参加者：15 名

・関西開催

日 時：平成 26 年 11 月 2 日（日）

場 所：王子スタジアム会議室

参加者：16 名

1 4) 受講者推薦（日本体育協会公認スポーツドクター及びアスレティックトレーナー養成講座）

定款第 5 条第 1 項第 5 号に関連する事業として、日本体育協会が主催するスポーツドクター養成講座及びアスレティックトレーナー養成講座の受講生を推薦した。推薦に当たっては、安全対策委員会が、受講希望者の中から日本体育協会の受講者選考基準に合格するものを選考した。

1 5) アメリカンフットボールに適した競技場の設置促進

定款第 5 条第 1 項第 6 号に関連する事業として、川崎市がアメリカンフットボールの活動拠点として位置付け取り組んできた川崎富士見球技場の観客席ならびに人工芝フィールドの改修工事に際して、利用者の立場から設備の仕様や運用についてアドバイスをした。

1 6) CFO 会議への競技規則委員派遣・参加

定款第 5 条第 1 項第 7 号に関連する事業として、全米大学体育協会（NCAA：National Collegiate Athletic Association）の公式規則変更、公式規則適用の状況を確認にかつ迅速に把握するために、米国 CFO（College Football Officiating LLC）が主催するクリニック（平成 27 年 1 月 26 日・27 日開催）に、競技規則委員長を派遣した。

1 7) WEB サイトによる情報発信

定款第 5 条第 1 項第 8 号に関連する事業として、JAJFA 専用の WEB サイトを活用して、国際試合における日本代表チームの活動、JAJFA が主催する日本選手権ライスボウルの出場チーム紹介及び試合結果、JAJFA の各委員会の活動に関する情報を発信した。

また、昨年度開設したフットボールアカデミーの「からだづくり講座」において、栄養学とトレーニングに関する情報を掲載した。

## 1 8) 殿堂顕彰

定款第 5 条第 1 項第 9 号に関連する事業として、2013 年度に制定した殿堂顕彰規程に基づき、殿堂顕彰委員会を組織し、殿堂顕彰候補者の推薦依頼（平成 26 年 7～9 月）、一次候補者リストの作成（平成 26 年 10 月）等の募集選考作業を実施した。

また、公益財団法人キープ協会のポールラッシュ記念館内に設置した日本アメリカンフットボールの殿堂の展示物更新、富士通スタジアム川崎の展示コーナーへの展示物選定及び貸出し等を行うとともに、10 月 18～19 日、同協会が主催する八ヶ岳カンティーンフェアに参加してフラッグフットボール、チアリーディング等の体験イベントを実施した。

## 1 9) 関係団体・機関との情報交換・連携

定款第 5 条第 1 項第 10 号に関連する事業として、国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF)、公益財団法人日本体育協会 (JS)、公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC)、独立行政法人日本スポーツ振興センター (JSC)、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構、一般社団法人日本トップリーグ連携機構 (JTL) など関係団体・機関と密に情報交換を行い、連携して活動した。

### (1) 国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF)

平成 27 年 7 月に予定されていた第 5 回 IFAF シニア世界選手権スウェーデン大会が、平成 26 年 12 月、スポンサーとの契約不調を原因として実施困難となっていることが判明したため、IFAF 理事会において代替計画の検討が行われた。代替開催計画の募集ならびに検討を経て、アメリカ合衆国オハイオ州キャンントン市での開催計画が平成 27 年 1 月末の IFAF 理事会で決議され、日本を含む 8 カ国が参加することが決定された。

なお、シニア世界選手権スウェーデン大会の実質的な責任者であるトミー・バイキング IFAF 会長が休職となったことから、IFAF 上席副会長金氏眞 (JAFA 専務理事) が IFAF 定款の定めに基づき IFAF 会長代行に就任した。

### (2) 公益財団法人日本体育協会 (JASA)

日本体育協会公認スポーツ指導者資格のうち、アメリカンフットボール指導員資格の認定業務を共同で実施するとともに、有資格者の義務研修を実施して資格保有者の資格更新を促した。

また、スポーツドクターならびにアスレティックトレーナーの養成講座の受講生候補者を公募のうえ選任して推薦した。

### (3) 公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC)

JOC 総務委員会に浅田会長が、選手強化本部会には金氏専務理事がそれぞれ委員として出席した。スポーツ団体マネジメントセミナー、JOC アントラージュフォーラムに伊藤常務理事が参加

するなど、JOC 主催のセミナー等に積極的に参加するとともに、JOC からのアンケート調査に協力し回答した。

(4) 独立行政法人日本スポーツ振興センター (JSC)

JSC の助成金事業に応募し、基金助成事業として第 1 回世界大学選手権に日本代表チームを派遣、くじ助成事業として JAF A フットボールアカデミー事業 (スポーツ教室スポーツ大会開催事業)、ドーピング検査事業ならびに IFAF 世界選抜育成キャンプ事業 (タレント発掘一貫育成事業) を実施した。また、JSC からのアンケート調査に協力し回答した。

(5) 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)

第 1 回アジアビーチフラッグフットボール選手権大会に参加するにあたって候補選手全員のドーピング検査、及び三大ボウルゲーム (甲子園ボウル、ジャパンエックスボウル、ライスボウル) でのドーピング検査を、日本アンチ・ドーピング機構の協力を得て実施した。

(6) 公益財団法人日本スポーツ仲裁機構 (JSAA)

JSAA が主催するスポーツ団体のガバナンスに関する意見交換会に伊藤常務理事が参加するとともに、NF 組織運営におけるフェアプレイガイドラインのセルフチェックリストに記入提出するなど、JSAA の活動に参加協力した。

(7) 一般社団法人日本トップリーグ連携機構 (JTL)

Xリーグ (社会人アメリカンフットボール協会) が加盟する日本トップリーグ連携機構の評議員会に浅田会長が、理事会に金氏専務理事がそれぞれ評議員ならびに理事として参加し、JTL メンバーの Xリーグとともに NF (統括団体) の立場から日本における球技スポーツ競技の発展に係る事業に協力参加した。

以上



## II 内部統制体制に関する決議

平成 26 年度は、内部統制体制について以下の決議を行った。

平成 26 年度第 1 回理事会（平成 26 年 4 月 13 日）

- 1) 会長に事故ある時の社員総会議長代行順位に関する規程

平成 26 年度第 5 回理事会（平成 26 年 12 月 20 日）

- 2) 寄付の受け入れに関する規程

平成 26 年度第 6 回理事会（平成 27 年 3 月 22 日）

- 3) 会計規程（修正案）
- 4) 就業規則（本則）

以上

## 附属明細書

重要な事項は、すべて事業報告に記載した。